

平成30年6月25日現在

機関番号：17301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17183

研究課題名(和文)中国帰国者の包摂と排除に関する総合的研究：境界文化の日中比較を手がかりに

研究課題名(英文)A general study on subsumption and exclusion of the Chugoku kikokusya(Chinese returnees): Comparison between Japan and Chinese about border cultures

研究代表者

南 誠(MINAMI, Makoto)

長崎大学・多文化社会学部・准教授

研究者番号：70614121

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的に鑑みて、研究期間中は、日本国内だけではなく、中国国内で政策分析のための档案閲覧と収集、言説分析のための新聞・雑誌記事などの収集と整理、および、支援団体と当事者らにインタビュー調査を実施した。これらの調査活動で得たデータをも参照して、中国帰国者をめぐる中国側の包摂と排除の力学、および、当事者らの境界文化の実態を明らかにしつつ、雑誌論文8件、学会発表等12件、図書4件(うち単著1件)を公表した。これらの研究活動を通じて、東アジアをめぐるポストコロニアルと人の移動に関する国際的な研究プロジェクトを構築するための基盤をも培ってきたのである。

研究成果の概要(英文)： In view of the purpose of this study, I conducted a survey to collecting and organizing DangAn(Public records in China) and magazine article for policy analyses and discourse analyses, and interviewed support groups and person concerned during study period. Referring to the data which I obtained by these research activities, I announced 8 magazine articles, presentations at the academic conference 12 times, published 4 books, and clarifying about the actual situation of the dynamics of subsumption and the exclusion of the China side around Chugoku kikokusya(Chinese returnees) and their border cultures. Through these research activities, I cultivated a base for construction of a future international research project about post-colonialism and movement of the person around the East Asia.

研究分野：社会学

キーワード：境界文化 中国帰国者 本国帰還者 歴史記憶 歴史社会学 比較研究 引揚者 未判明孤児

1. 研究開始当初の背景

現代のグローバリゼーション時代においては、人々の越境的移動が活発化する一方、それをめぐる管理体制も強化されつつある。こうした背景に鑑み、本研究は、「日本人」として生まれながらも、日本と中国の政策と社会的包摂・排除によって、中国での残留を強いられ、日本に永住帰国してから、エスニックグループとして顕在化していった「中国帰国者」に焦点を定めて、研究を行う。

中国帰国者とは1972年の日中国交正常化以後に、日本へ永住(帰国)・定住するようになった中国残留日本人とその家族のことを指している。日本の中国帰国者研究は、蘭信三(1994)『満洲移民の歴史社会学』の上梓を契機に注目されるようになったが、本格的な研究が公刊されたのは2000年に入ってからである(蘭信三編(2000)『中国帰国者の生活世界』、呉万虹(2004)『中国残留日本人の研究』、張嵐(2011)『中国残留孤児の社会学』)。これらの研究によって、中国帰国者理解が深められたが、中国社会におけるその生活実態の解明は必ずしも十分ではない。こうした研究状況を埋めつつ、さらなる総合的な研究を目指して、本研究課題を設定したのである。

2. 研究の目的

本研究課題の全体構想は、中国帰国者の包摂と排除に関する総合的研究を目指して、その境界文化の日中両国の国家・地域間、世代間と男女間の比較社会的分析を行うことである。そのため、申請者がこれまで日本での研究調査実績を参照しつつ、中国でも同様の調査を実施する。具体的には、中国政府と社会の包摂と排除のメカニズムを明らかにするために、関連政策とまなざしの文献資料調査や、当事者と親族および関係者への聞き取り調査を行う。最終的には、本研究課題の遂行を通じて、中国帰国者の境界文化の特質性や、個性性と多様性を明らかにしたうえで、グローバル時代における人の移動をめぐる力学の解明と、多文化共生社会構築に関する新たな知見の析出を目指す。

3. 研究の方法

調査方法としては、文献資料の収集・分析や、質問紙を用いた半構造化されたインタビュー調査を用いる。インタビュー対象者は中国帰国者当事者とその親族のほか、行政と支援団体の関係者を中心に、機縁法により行う。

4. 研究成果

本研究期間中は、研究目的に沿って、日本国内だけではなく、中国国内で政策分析のための档案閲覧と収集、言説分析のための新聞・雑誌記事などの収集と整理、および、支援団体と当事者らにインタビュー調査を実施した。これらの調査活動を通じて、中国帰国者をめぐる中国側の包摂と排除の力学、および、当事者らの境界文化の実態を明らかにした。なお档案資料の閲覧が近年厳しく制限されているため、必ずしも予定通りに完遂できたわけではない。今後の課題として、档案資料の更なる調査を通じて、本研究課題のテーマをさらに深めていく予定である。

以上の調査活動で得たデータをも参照して、研究期間中においては、雑誌論文8件、学会発表等12件、図書4件(うち単著1件)を公表した。これらの成果公表活動からも明らかのように、日本国内だけではなく、中国と台湾、そして韓国の研究者とも学术交流を積み重ねてきている。台湾と韓国でも予備的な調査を行い、東アジアをめぐるポストコロナと人の移動に関する国際的な研究プロジェクトを構築するための基盤をも培ってきたのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

南誠、「中国帰国者」問題の研究可能性—生成的な境界文化の探求をめざして、『グローカル研究』5号成城大学グローカル研究センター、73-88、2018、査読有。

南誠、「多みんぞくニホン」の歴史と境界文化、『多文化社会研究』4号長崎大学多文化社会学部、33-55、2018、査読有。

南誠、「多みんぞくニホン」のかたち—多文化「共創」社会の実像、『多文化社会研究』4号長崎大学多文化社会学部、29-31、2018、査読有。

南誠、書評 浅野慎一・佟岩著『中国残留日本人の研究：ポスト・コロナの東アジアを生きる』、『移民政策研究』9号『移民政策学会』、185-187、2017、査読無し(依頼原稿)。

李偉・南誠、

： (1898-1945)

(大連都市公園の誕生と変遷：植民地統治時代(1898~1945年)を中

心に) 『 』 12 (『海
港都市文化交渉学』第 12 号)

(韓国海洋大学校国際海洋問題研究所) 49-82、2015、査読有。

南誠、中国帰国者の境界文化における国民性の表出、『日中社会学研究』23 日中社会学会、45-54、2015、査読有。

南誠、中国帰国者と多文化共生: アンケート調査の結果を手がかりに考える、『21 世紀アジア社会学』第 7 号日中社会学会、72-83、2015、査読有。

〔学会発表〕(計 12 件)

南誠、リスク社会における境界文化の創発性 中国帰国者の「存在論的不安」の対処法を手がかりとして、シンポジウム「リスク社会をめぐる人文社会科学の超域的枠組み構築へ向けて」(長崎大学重点研究課題「『リスク社会』を生き続けるための人文社会科学の超域的研究拠点形成」主催、於長崎大学) 2018 年

南誠、リスク社会における境界文化の創発性: パウマンの「液状不安」を手がかりに、研究会「現代世界の社会的リスクに関する超域的議論のための理論的検討(2)」(長崎大学重点研究課題「『リスク社会』を生き続けるための人文社会科学の超域的研究拠点形成」主催、於長崎大学) 2017 年 12 月 19 日、招待講演。2 月 7 日、招待講演。

南誠、中国帰国者の界限文化与身份认同: 华侨和日侨之间、世界海外華人研究学会第 25 回「グローバルとローカルのダイナミズム」(世界海外華人研究学会主催、於長崎大学) 2017 年 11 月 18 日、招待講演。

南誠、中国帰国者問題の研究可能性: 生成的な境界文化の探究をめざして(中国帰国者の界限文化与身份认同) 国際シンポジウム「ポスト西洋社会学へ: 東と西との対話」(成城大学主催、於成城大学経済研究所) 2017 年 10 月 22 日、招待講演。

南誠、近代東亞的界限文化研究: 歸還移民和歴史記憶的國際比較、講演会「知識史研究群」(台湾中央研究院近代史研究所、於台北市中央研究院近代史研究所)

2017 年 8 月 25 日、招待講演。

南誠、「多みんぞくニホン」の歴史と境界文化、シンポジウム「多みんぞくニホン」のかたち~多文化「共創」社会の実像(長崎大学多文化社会学部主催、於長崎大学文教キャンパススカイホール) 2017 年 7 月 28 日、招待講演。

南誠、超越国境的中国残留日本人記憶(越境する中国残留日本人の記憶) 国際学術会議「鐘山論壇」(南京大学亜太発展研究センター主催、於南京市中山陵景区紫金山莊) 2016 年 10 月 29 日、招待講演。

南誠、中国帰国者の境界文化: ナショナリティ、エスニシティ、ジェンダーに着目して、ワークショップ「帝国の解体と女性: 断絶/連続する脱植民地の生活世界」(北海道大学主催、於北海道大学遠友学舎) 2016 年 9 月 26 日、招待講演。

南誠、越境する中国帰国者: 生成的な境界文化の可能性をめぐる、国際学術会議「越境を考える: その課題と可能性」(日中社会学会第 28 回大会シンポジウム、於長崎ブリックホール) 2016 年 6 月 4 日、招待講演。

南誠、満洲記憶の國際比較研究と歴史認識対立の和解可能性、ワークショップ「東アジアの和解と歴史教育」(早稲田大学主催、於早稲田大学) 2015 年 12 月 6 日、招待講演。

南誠、歴史認識の対立と和解の可能性: 日本の引揚者と中国帰国者を手がかりとして、国際学術会議「南京論壇 2015」(南京大学主催) 2015 年 10 月 20 日、招待講演。

南誠、中国帰国者の移動とアイデンティティ、第 4 回日韓知識人ワークショップ「解放 70 年、敗戦 70 年、戦勝 70 年のアジア: 心の分断と記憶の競争、そして国境を越える市民」(ハンシン大学主催、於ソウル) 2015 年 9 月 6 日、招待講演。

〔図書〕(計 4 件)

南誠、中国帰国者をめぐる包摂と排除の歴史社会学: 境界文化の生成とそのポリティクス、『中国帰国者をめぐる包摂と排除の歴史社会学: 境界文化の生成とそのポリティクス』明石書店、1-278、2016。

李偉・南誠、大連都市公園の誕生と変

遷：植民地統治時代（1898～1945年）
を中心に、権京仙・具知瑛編著『大連：
環黄海圏海港都市百年の軌跡』（韓国語）
、
、
100
』図書出版
ソンイン、323-357、2016.

南誠、「中国帰国者」系日本人：生成的
な境界文化の可能性、駒井洋監修 佐々
木てる編『マルチ・エスニック・ジャパ
ニーズ：系日本人の変革力』明石書
店、203-218、2016.

南誠、中国帰国者と身分証明、陳天璽等
編『パスポート学』北海道大学出版会、
224-230、2016.

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

南誠、満蒙開拓平和記念館主催『中国養
父母を知るシンポジウム』にコメンテ
ーター、国際会議「中国養父母を知るシン
ポジウム」（於長野県下伊那郡阿智村・
阿智村コミュニティーセンター）、2015
年12月12日.

引揚と中国残留日本人の取材協力（長崎
新聞、毎日新聞、朝日新聞、信濃毎日新
聞など

マスコミ報道関連（信濃毎日新聞（2015
年11月21日）、朝日新聞（大阪版、2015
年12月25日）、朝日新聞（東京版、2016
年1月2日）、信濃毎日新聞（2016年11
月18日）、毎日新聞（富山版、2017年
10月26日））

6. 研究組織

(1) 研究代表者

南 誠 （MINAMI, Makoto）
長崎大学・多文化社会学部・准教授
研究者番号：70614121